

2013

新春市民文芸

新春にあたり、俳句と短歌、川柳を募集したところ、俳句の部では490人の方から777句（うち小・中学生448人から653句）、短歌の部では40人の方から108首、川柳の部では29人の方から83句の応募がありました。たくさんのご応募ありがとうございました。

俳句の部は安楽岡寛氏、短歌の部は斎藤すみ子氏、川柳の部は肥後勇氏に審査していただいた結果、次の皆さんが入選されました。おめでとうございます。

俳句

◆特選◆

初明りして神の杉神の滝

熊味町 蓮沼 健

大床に掛軸ゆかし初茶の湯

駒場町 石川しづ子

はらからの下戸も上戸も屠蘇祝ふ

住崎三丁目 青山 興子

読初や活字となりしわが一句

熊味町 立松 朋子

産土神へ一筋径や淑氣満つ

八ツ面町 谷 保夫

布施おいて受ける札所の小豆粥

丁田町 太田小夜子

余生とは写経一念春炬燵

米野町 長谷 キヨ

スキップもジャンプも見事初鴉

川口町 山本 絢子

隅櫓城址に凜と初景色

駒場町 信川 芳枝

清らかな巫女より受くる初御籤

花蔵寺町 三浦 貞子

恙なく卒寿賜わり初鏡

緑町 鎌田 晴枝

たっぷりと御神酒注ぎ漁始

下羽角町 服部 芳子

放水を天に突き刺す出初かな

永吉町 石川とみ子

神の田に鳩の来ており今朝の春

下羽角町 濱嶋 君江

墨の濃き米寿の兄の年賀状

伊藤一丁目 近藤 貞子

瑞雲のたなびく峰や初日影

永吉町 石川 英一

初日受く新装なりし神楽殿

江原町 近藤 雅恵

初日さす瑠璃光殿の金の壺

家武町 神取 和子

俳句(小・中学生)

ゆきうさぎあかいおめめがかわいいな 鶴城小一年 堀内 留楓

おしよがつくうきがきりつとしていよ 鶴城小一年 秋田 准成

どんぐりをいっばいあつめてこまづくり 鶴城小一年 岩田 真実

ねんがじょうきもちを遠くとどけてね 鶴城小二年 都築 凜

たこあげやいっしょにとびたい空の上 鶴城小二年 山口 彩乃

はつひのでまっかないろがきれいだね 鶴城小二年 豊福真莉夏

新年はうれしいことが待っている 鶴城小四年 十文字優夏

ねんがじょうげんきのあいさつとどいたよ 鶴城小四年 本多 賢

こたつさんわたしの心もぼつかばか 鶴城小四年 田邊 琳

初夢でみんなでサッカー楽しいな 矢田小五年 古居 凌河

風にのり天までとどけたこあげる 矢田小五年 永谷 海斗

あかつきがメラメラ燃える初日の出 矢田小五年 竹口 岳

父母と山から拜む初日の出 室場小六年 中村 哲也

たんぽぽが雪どけ水で光ってる 室場小六年 森下 明璃

気合い入れ今年の思い書き初めに 室場小六年 半田詩桜里

海を見る君の瞳に初日の出 東部中三年 三浦 正平

朝景色初日迎える鳥の声 東部中三年 今村 友亮

節料理いろんな意味がまつてる 東部中三年 青山 泰樹

短歌

◆特選◆

除夜の鐘最後のひとつを撞き終えてしみじみと深き余韻を聞きぬ

中原町 藤井美智子

初春の空のまほらに光りつつゆくジェット機は征矢のごとかり

米津町 村上チオリ

三ヶ根の雪を吉事とよろこびて夫と迎えん新しき年

東幡豆町 岡田真木子

花咲きぬつぼみの儘の水仙を炭火の入りし室に飾れば

上町 岡嶋 勝利

節くれ立つ指が支へし餅菜畑束ね配りしことの喜び

鎌谷町 手島よし江

淋しかりし独り暮しは終りたり温かき家族と除夜の鐘きく

天竹町 鈴木マツエ

年毎に聴力萎えしこの頃は会話途切れて頷くばかり

会生町 大竹喜代子

今宵より風呂は楽しや香りよき庭に色づく柚子を浮かべて

米津町 沢戸 守

まだ暗き神域の空仰ぎつついよいよ明るる年をしぞ思ふ

桜町 山下 麗子

「誰が袖」とふ母愛用の香袋春着の母の立ち居に匂ふ

江原町 近藤 雅恵

地にありて近々と見る十畳靨青竹の骨荒縄の尻尾

上羽角町 乙部 妙子

玉砂利を踏みしめ進む初詣で平穩無事を祈る拍手

永吉町 石川 英一

新しき年を迎えてしみじみと百一歳の亡き師を憶う

下永良町 榊原さちよ

オイル良しエンジンの音更に良し今年の春耕地下足袋馴染む

野々宮町 川上 信子

新しき靴買い揃えいそいと媪七十のグラウンドゴルフ

和気町 犬塚 房江

ショーウインドーに写れるわれとは無縁にてマネキン華麗に春を呼びいる

楠村町 小島日出世

聖運寺唯法寺の鐘鳴り合ふを聞きつつしばし煩惱忘る

天王町 高松 満子

傘寿尚現役である仕合せが夫の生き甲斐田打正月

上羽角町 金子あきゑ

川柳

◆特選◆

轟いて吊るす余地無き祈願絵馬

永吉町 石川 英一

米所花展の床に鶯稲

和気町 犬塚 房江

お年玉孫から貰う齡となり

鎌谷町 手島よし江

認知症テストを受けて免許証

米津町 米津喜三子

孫達のメール年賀の味気なさ

丁田町 川口 禮子

皺しわの顔に塗り込む初化粧

川口町 山本 絢子

八十は遊び盛りよ姥ざかり

天竹町 鈴木マツエ

お節にも飽きてカレーを煮る厨

米津町 沢戸美代子

継続の五年日記は三年目

永吉町 石川とみ子

見えすぎて嘆く八十路の初鏡

家武町 神取 和子

老の春八度の巳年迎へたき

駒場町 信川 芳枝

看とるのはどっち夫読む初暦

江原町 近藤 雅恵

お年玉何才になっても当てにされ

矢曾根町 佐藤 哲也